

更級小学校のシンボル騎馬像

(H16年度 PTA 文集さらしな 36号に掲載)

更級小学校 石井 智

更級小学校は明治六年の羽尾に出来た仮校舎での教授、翌七年に羽尾・若宮・須坂の三ヶ村が協力して作った鼎立学校から数えて百三十年の歴史を持っています。

またそれに併せるかのように平成十三年度から始まったプールの改修、校舎改築・大規模改修も昨年度末に終了し、この五月には新校舎竣工式典も終えることが出来ました。

二月三日には多くのご来賓をお迎えして盛大な記念式典も挙行することが出来ました。



さて本年度私が更級小学校に赴任することが決まったときに、この学校にいたことがある先生から、「更級小学校には『騎馬像』という石像があるよ」と聞きました。「騎馬像」とはどんな像だろうかと楽しみに赴任してきました。その後「目を上げ、手を組みたくましく進む子」という学校目標も、この騎馬像に由来していることを知りました。

この騎馬像については本校の百年誌「さらしなの里」に小林久雄元校長先生の寄稿された「騎馬像建立の由来」についての文章がありますが、学校職員は数年もすると殆どが入れ替わってしまい、その由来等が分からなくなる場合も多く、この騎馬像の由来や建立の過程などもきちんと記録しておく必要があると思っています。そこでこの稿をお借りして、百年誌に載っていないことを中心に書き残しておきたいと思います。

さてこの騎馬像ですが、作者は笹村草家人(校長室に残されている「笹村草家人文集(上下巻)」によれば『騎馬戦の像』が正式名称のようです)という当時禄山美術館の館長さんで、世界的に有名な不世出な彫刻家ということです。

本校の騎馬像以外に学校関係の彫刻としては昭和三十五年作の 信大附属松本中学校校庭の「灯をかける女」とか昭和三十六年作の松本市源池小学校校庭の河童池と河童像などが上記文集に紹介されています。

笹村草家人は上記文集の森信三先生の序文によると彫刻家としてだけでなく「爐辺閑話



笹村草家人先生

（上下二巻）」に代表されるような卓越した文人としても評価できる彫刻家ということが分かります。

この騎馬像は昭和四十五年の七月に建てられました。ちょうど明治以来の木造の旧々校舎が取り壊され鉄筋コンクリート造りの近代的な校舎（旧校舎）が建てられたので、その落成のお祝いの記念として建てられたのです。校舎全面改築ということで地域住民にも多くの浄財を頂いたので鉄筋コンクリート造りの

校舎新築にふさわしい「永久的に堅牢なものを残したい」という願いから石像に決定したようです。

そこで石像制作を誰に依頼するかということになり、当時の大口教頭先生が笹村先生をご存じであったとのことで、笹村草家人先生に依頼するようになったようです。しかし石像を作りたいと決まりましたが、どういう石像にするかということは、なかなか決まらなかったようです。笹村先生も“観音様や野口英世の像を作るのならすぐ仕事を始められるが、これはむずかしい”とおっしゃっておられたそうです。

笹村先生は何回も更級へ来られ、更級の自然を見たり、運動会の練習の様子をごらんになったり、子どもたちの遊ぶ様子を見られたり、またPTAの方々に、子どもの頃遊んだことを聞かれたり、その頃の校長先生のお考えも聞かれたそうです。

笹村先生は「学校に登校してくる子どもの像にしようか」「一人にしようか、二人にしようか」「遊んでいる男の子や女の子たちの姿にしようか」等ずいぶん考えられたそうです。

女の子を一人台の上に立たせて左右から撮影した写真なども残っていることから、公共施設等にある「少女像」みたいな像も考えていたようです。



それでもなかなか決まらず、長い時間かかってやっと「こんな子どもになってほしい、という保護者からの願いをこめた像にしたい」ということだけ決まりました。

PTA会長さんに自分の子どもの頃に鞍石という大きな石に馬乗りに乗って遊んだという話を聞いたそうで、本校のシンボルである冠着山のこと、皆さんの願いなど、いろいろ考えられて最終的にこの騎馬像に決められたとのことです。



この石像の背面には「更級の子らのちゝ・はゝがこれを建てる」と刻まれています。この文に更級のお父さんお母さん達の我が子を思う気持ちが込められていることが分かります。

この騎馬像の石は南佐久から持ってきた石だそうですが（安山岩のようです）、硬くて風雨にも耐えられるようにということであちこちの石を笹村先生は探されたようです。

その製作過程についてはアルバムが残っています。しかし説明が全く残っていませんので類推ですが、残っている写真を見ると子どもたちに騎馬をつくらせてそれをスケッチをしてその後この様なイ

メージにという風にして粘土で等身大の塑像をつくりそれを元に制作されたようです。

先日の百三十周年記念式典のうちに、ある保護者のお母さんが「この騎馬を組んでいる男子児童」の写真を見て「あっこれはお父（夫）さんだ」と言っていました。

この石像はまたよく見てみると、「足の部分」「手を組む3人の上半身の部分」「カブトをかぶって騎馬に乗っている児童の上半身の部分」と3つの部分の3段重ねになっています。

騎馬像は体育館の南側に丸い山の上に立っていますが、騎馬像が倒れないように、小山の中には丈夫なコンクリートの土台がつくられており、騎馬像が簡単には倒れないようにしっかりと固定されているようです。

また丸い山の土盛りが崩れてこないように、回りは縁石で囲っているのですが、この石は笹村先生が古い校舎を忘れないようにと、旧校舎の土台の石を使ったのです。



またこの丸い山の土も全校の子どもたち、先生方、PTAの方々が運んで盛り土をしたそうです。小山の表面の芝も表面の土が流れないようにと菅平から取り寄せた強い芝だそうです。

出来上がった騎馬像は3人の子どもたちが手を組んで協力して、一人のカブトをかぶっている人を乗せています。上に乗っている人は力強い目を輝かせて冠着山を見上げています。みんなで協力して一つの目標に向かって歩いていこうという姿です。

このように「騎馬像」の姿は現在の更級小学校の学校目標「目を上げ、手を組み、たくましく進む子」につながっています。

騎馬像を作ってくださった、笹村先生は、この像を作られて、しばらくして、亡くなられました。健康に不安のあった笹村先生は「この騎馬像が最後の作品になるかもしれない、ありったけの心をこめて作りましょう」と言われたそうです。この騎馬像は、更級学校の宝物であると共に、日本中の、世界中の人々の宝物だと思います。

これからもこの騎馬像は更級小学校のシンボルとしてずっと子どもたちの理想の姿として建ち続けてくれるものと思います。

参考文献

- (一)「さらしなの里」(本校百周年記念誌) : 昭和五十年)
- (二) 笹村草家人文集(昭和五十五年)
- (三) 校長講話集(平成五年度)



